

## 《佐々木卓也先生業績目録》

### 1. 単 著

- 『封じ込めの形成と変容——ケナン、アチソン、ニッツェとトルーマン政権の冷戦戦略』三嶺書房，1993年5月
- 『アイゼンハワー政権の封じ込め政策——ソ連の脅威，ミサイル・ギャップ論争と東西交流』有斐閣，2008年2月
- 『冷戦——アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』有斐閣，2011年11月

### 2. 単編著

- 『戦後アメリカ外交史』有斐閣，2002年10月
- 『戦後アメリカ外交史〔新版〕』有斐閣，2009年4月
- 『ハンドブック アメリカ外交史——建国から冷戦後まで』ミネルヴァ書房，2011年3月
- 『戦後アメリカ外交史〔第三版〕』有斐閣，2017年4月

### 3. 共編著・監修

- 『日米関係資料集 1945-97』細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編，東京大学出版会，1999年2月
- 『もう一つの日米交流史——日米協会資料で読む20世紀』日米協会編（五百旗頭真・久保文明・佐々木卓也・箕原俊洋監修），中央公論新社，2012年4月
- 『細谷千博著作選集』全2巻，細谷千博著作選集刊行委員会編（編集世話人：白井久和・波多野澄雄・大芝亮・佐々木卓也・井上寿一・高橋和宏），龍溪書舎，2012年9月
- 『アメリカ文化事典』アメリカ学会編（編集委員），丸善出版，2018年1月

### 4. 論 文

- 「ジョージ・F・ケナンとドイツ分割・再統一問題，1945-49年」『一橋論叢』第93巻第2号，1985年2月
- 「ポール・H・ニッツィと封じ込め政策の転換，1950-53年」『一橋論叢』第100巻第1号，1988年7月
- 「ジョージ・F・ケナン，ポール・H・ニッツィとNSC68への道」『一橋論叢』第103巻第1号，1990年1月
- 「軍事的封じ込めの確立とその前途，1950年冬～1951年春」『関東学院法学』第1巻

第1号, 1991年12月

「冷戦」細谷千博・白井久和編『国際政治の世界——21世紀国際システムの展望〔新版〕』有信堂, 1993年4月

「アメリカと冷戦」細谷千博・丸山直起編『ポスト冷戦期の国際政治』有信堂, 1993年6月

「クリントン政権と日米関係」『アメリカ研究シリーズ』（立教大学アメリカ研究所）第18号, 1996年3月

「資本主義と社会主義の確執」（横山宏章との共著）横山宏章・野林健編『国際政治の21世紀像——世界をゆるがすドラマ20幕』有信堂, 1996年4月

「アメリカ外交とNGO——1980年代前半の核兵器凍結運動をめぐる」白井久和・高瀬幹雄編『民際外交の研究』三嶺書房, 1997年6月

「ゲイサー報告書とアイゼンハワー政権の封じ込め政策」上『立教法学』第47号, 1997年7月

「ゲイサー報告書とアイゼンハワー政権の封じ込め政策」下『立教法学』第50号, 1998年7月

「ソ連の脅威の新たな段階とアイゼンハワー政権の封じ込め政策——1950年代後半」上『立教法学』第52号, 1999年3月

“The Eisenhower Administration’s Containment Policy and East-West Exchanges, 1955-60” (Part 1) 『立教法学』第56号, 2000年8月

“The Eisenhower Administration’s Containment Policy and East-West Exchanges, 1955-60” (Conclusion) 『立教法学』第57号, 2001年1月

“The Eisenhower Administration, the Cold War, and East-West Exchanges, 1955-60,” in Julie Higashi, ed., *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar, July 26-July 28, 2001* (Center for American Studies, Ritsumeikan University: 2002)

「ソ連の脅威の新たな段階とアイゼンハワー政権の封じ込め政策——1950年代後半」下『立教法学』第61号, 2002年5月

「西欧国際体系とアメリカ外交の軌跡」吉川元・加藤普章編『国際政治の行方——グローバル化とウェストファリア体制の変容』ナカニシヤ出版, 2004年5月

「冷戦外交と太平洋戦争の記憶——日米の比較」細谷千博・入江昭・大芝亮編『記憶としてのパールハーバー』ミネルヴァ書房, 2004年5月

「アメリカ外交と単独主義の伝統」五十嵐暁郎・佐々木寛・高原明生編『東アジア安全保障の新展開』明石書店, 2005年4月

「ジョージ・F・ケナンとは——知的活動の軌跡を振り返る」『外交フォーラム』第19巻第2号, 2006年2月

- 「G・W・ブッシュ外交の歴史的位相」総合研究開発機構 (NIRA)・横田洋三・久保文明・大芝亮編『グローバル・ガバナンス——「新たな脅威」と国連・アメリカ』日本経済評論社, 2006年2月
- 「デタントの崩壊と新冷戦」アメリカ学会編『衰退論の登場』岩波書店 (原典アメリカ史第八巻), 2006年6月
- 「歴史的背景——冷戦外交の展開」五十嵐武士編『アメリカ外交と21世紀の世界——冷戦史の背景と地域的多様性をふまえて』昭和堂, 2006年6月
- “Cold War Diplomacy and Memories of the Pacific War: A Comparison of the American and Japanese Cases,” in Marc Gallicchio ed., *The Unpredictability of the Past: Memories of the Asia-Pacific War in U.S.-East Asian Relations* (Durham: Duke University Press, 2007)
- 「戦争とアメリカ外交」古矢旬・山田史郎編著『権力と暴力』ミネルヴァ書房 (シリーズ・アメリカ研究の越境2), 2007年6月
- 「バクス・アメリカーナの中の戦後日本 1950年代」(中西寛との共著) 五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣, 2008年3月
- 「日米協調の果実 1960年代」(五百旗頭真との共著) 五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣, 2008年3月
- 「米ソ冷戦史——アメリカの視点」日本国際政治学会編『歴史の中の国際政治』有斐閣 (日本の国際政治学4), 2009年3月
- 「大統領選挙が映すアメリカの変容」『立教アメリカン・スタディーズ』第31号, 2009年3月
- 「『核』とアメリカの平和」日本国際政治学会編『国際政治』第163号, 2011年1月
- 「アメリカの外交的伝統・理念と同盟——その歴史的展開と日米同盟」日本国際問題研究所監修・久保文明編『アメリカにとって同盟とはなにか』中央公論新社, 2013年2月
- 「アメリカ外交と東アジア・太平洋秩序の形成」宮城大蔵編『戦後アジアの形成』中央公論新社 (歴史のなかの日本政治5 [監修 北岡伸一]), 2014年2月
- 「ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交50年』と封じ込め政策の展開」『法学新報』第123巻7号, 2017年1月
- “The 1950s: Pax Americana and Japan’s Postwar Resurgence” (with Hiroshi Nakanishi) in Iokibe Makoto and Tosh Minohara, eds., *The History of US-Japan Relations: From Perry to the Present* (London: Palgrave Macmillan, 2017)
- “The 1960s: Japan’s Economic Rise and the Maturing of the Partnership” (with Iokibe Makoto) in Iokibe Makoto and Tosh Minohara, eds., *The History of US-Japan Relations: From Perry to the Present* (London: Palgrave Macmillan, 2017)

- 「『トランプ革命』とアメリカ外交へのインプリケーション」『国際問題』第663号、2017年7・8月
- 「アメリカ合衆国にとっての冷戦——軍事的対抗と国際交流」松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『冷戦と平和共存』岩波書店（ロシア革命とソ連の世紀3）、2017年8月
- 「ジョージ・ケナンの現実主義と日米関係論——政策と理論の交差」大矢根聡編『国際関係理論と日本外交史——「分断」を残り越えられるか』勁草書房、2020年2月
- “The Evolution of Japanese Politics and Diplomacy under the Long Shadows of Hiroshima and Nagasaki, 1974-1991” in Michael D. Gordin and C. John Ikenberry, eds., *The Age of Hiroshima* (Princeton: Princeton University Press, 2020)
- 「冷戦の起源論争」「冷戦終結をめぐる議論」大矢根聡編『戦後日本外交からみる国際関係——歴史と理論をつなぐ視座』ミネルヴァ書房、2021年4月
- 「アメリカの東アジア・太平洋外交——中国の『門戸開放』から『自由で開かれたインド太平洋』へ」広島市立大学広島平和研究所編『アジアの平和とガバナンス』有信堂、2022年3月
- 「日本の政治外交と広島・長崎の長い影、1974～1991年」マイケル・D・ゴードン／G・ジョン・アイケンベリー編『国際共同研究 ヒロシマの時代——原爆投下が変えた世界』（藤原帰一・向和歌奈監訳）岩波書店、2022年3月
- 「アメリカ外交の長期的展開・変容と国際秩序」日本国際政治学会編『国際政治』第213号、2024年3月刊行予定

## 5. 書評・新刊紹介、解説など

- 新刊紹介 「油井大三郎・中村政則・豊下楯彦編『占領改革の国際比較——日本・アジア・ヨーロッパ』（三省堂、1994年）」『アメリカ学会会報』第116号、1995年2月
- 資料紹介 「米国国家安全保障会議文書第5810号の1」『関東学院法学』第5巻第2号、1996年1月
- 書評 「ジョン・ルイス・ギャディス著『今われわれは知る——冷戦の歴史を再考する』John Lewis Gaddis, *We Now Know: Rethinking Cold War History* (New York: Oxford University Press, 1997)」『国際政治』第122号、1999年9月
- 書評 「五十嵐武士『覇権国アメリカの再編——冷戦後の変革と政治的伝統』（東京大学出版会、2001年）」『東京大学アメリカ太平洋研究』第2号、2002年3月
- 紹介 「酒井啓子『イラクとアメリカ』（岩波新書、2002年）」『アジア経済』第43巻第12号、2002年12月

- 書評 「細谷雄一『外交による平和——アンソニー・イーデンと二十世紀の国際政治』(有斐閣, 2005年)、『書齋の窓』第545号, 2005年6月
- 解説 「ケナン著『ソビエト対外行動の源泉』(X論文)、『外交フォーラム』第19巻第2号, 2006年2月
- 書評 「現代アメリカ外交の原型と日米関係——高原秀介『ウィルソン外交と日本——理想と現実の間 1913-1921』を読んで』、『創文』第489号, 2006年8月
- 書評 「渡邊啓貴『米欧同盟の協調と対立——二十一世紀国際社会の構造』(有斐閣, 2008年)、『外交フォーラム』第22巻第3号, 2009年3月
- 書評 「倉科一希『アイゼンハワー政権と西ドイツ——同盟政策としての東西軍備管理交渉』(ミネルヴァ書房, 2008年)、『外交フォーラム』第22巻第3号, 2009年3月
- 書評 「五百旗頭真『歴史としての現代日本——五百旗頭真書評集成』(千倉書房, 2008年)、『外交フォーラム』第22巻第3号, 2009年3月
- 書評 「ティム・ワイナー『CIA 秘録——その誕生から今日まで』上・下(藤田博司・山田侑平・佐藤信行訳, 文藝春秋, 2008年)、『外交フォーラム』第22巻第6号, 2009年6月
- 書評 「斎藤眞・久保文明編『アメリカ政治外交史教材 英文資料選 [第2版]』(東京大学出版会, 2008年)、『外交フォーラム』第22巻第6号, 2009年6月
- 書評 「ジョン・ジェラルド・ラギー『平和を勝ち取る——アメリカはどのように戦後秩序を築いたか』(小野塚佳光・前田幸男訳, 岩波書店, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第6号, 2009年6月
- 書評 「マシュー・ブレジンスキー『レッドムーン・ショック——スプートニクと宇宙時代のはじまり』(野中香方子訳, 日本放送出版協会, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第9号, 2009年9月
- 書評 「増田弘『マッカーサー——フィリピン統治から日本占領へ』(中公新書, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第9号, 2009年9月
- 書評 「曹良鉉『アジア地域主義とアメリカ——ベトナム戦争期のアジア太平洋国際関係』(東京大学出版会, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第9号, 2009年9月
- 書評 「楠綾子『吉田茂と安全保障政策の形成——日米の構想とその相互作用 1943~1952年』(ミネルヴァ書房, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第12号, 2009年12月
- 書評 「マイケル・L・ドックリル, マイケル・F・ホブキンズ『冷戦 1945-1991』(伊藤裕子訳, 岩波書店, 2009年)、『外交フォーラム』第22巻第12号, 2009年12月

- 書評 「ポール・ゴードン・ローレン, ゴードン・A・クレイグ, アレクサンダー・L・ジョージ『軍事力と現代外交——現代における外交的課題〔原書第4版〕』(木村修三・滝田賢治・五味俊樹・高杉忠明・村田晃嗣訳, 2009年)」「『外交フォーラム』第22巻第12号, 2009年12月
- 書評 「森聡『ヴェトナム戦争と同盟外交——英仏の外交とアメリカの選択1964-1968年』(東京大学出版会, 2009年)『外交フォーラム』第23巻第3号, 2010年3月
- 書評 「ジョージ・R・パッカード『ライシャワーの昭和史』(森山尚美訳, 講談社, 2009年)」「『外交フォーラム』第23巻第3号, 2010年3月
- 書評 「天野拓『現代アメリカの医療改革と政党政治』(ミネルヴァ書房, 2009年)」「『外交フォーラム』第23巻第3号, 2010年3月
- 書評 「多湖淳『武力行使の政治学——単独と多角をめぐる国際政治とアメリカ国内政治』(千倉書房, 2010年)」「『レヴァイアサン』第50号, 2012年4月
- 新刊紹介 「菅英輝編『冷戦と同盟——冷戦終焉の視点から』(松籟社, 2014年)」「『アメリカ学会会報』第186号, 2014年11月
- 解説 「ジョージ・ケナンと二十世紀アメリカ」ジョージ・ケナン『二十世紀を生きて——ある個人と政治の哲学』(関元訳, 中央公論新社, 2015年7月)
- 書評 「三牧聖子著『戦争違法化運動の時代——「危機の20年」のアメリカ国際関係思想』(名古屋大学出版会, 2014年)」「『東京大学アメリカ太平洋研究』第16号, 2016年3月
- 研究動向 「最近の日米関係研究」日本アメリカ史学会編『アメリカ史研究』第39号, 2016年8月
- あとがき 「有賀貞『現代国際関係史——1945年から21世紀初頭まで』」東京大学出版会, 2019年4月
- 新刊紹介 「青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編『現代アメリカ政治外交史——「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』(ミネルヴァ書房, 2020年)」「『アメリカ学会会報』第204号, 2020年11月

## 6. 新聞書評

- ボブ・ウッドワード『ブッシュのホワイトハウス』上・下(伏見蕃訳, 日本経済新聞出版社, 2007年)日本経済新聞, 2007年4月15日
- エミリー・S・ローゼンバーグ『アメリカは忘れない——記憶のなかのパールハーバー』(飯倉章訳, 法政大学出版局, 2007年)図書新聞, 2007年6月30日
- ケント・E・カルダー『米軍再編の政治学——駐留米軍と海外基地のゆくえ』(武井楊一訳, 日本経済新聞社, 2008年)日本経済新聞, 2008年7月6日

- マイケル・ドブズ『核時計 零時1分前——キューバ危機 13日間のカウントダウン』（布施由紀子訳, NHK 出版, 2010年）日本経済新聞, 2010年3月7日
- O・A・ウェスタッド『グローバル冷戦史——第三世界への介入と現代世界の形成』（佐々木雄太監訳／小川浩之・益田実・三須拓也・三宅康之・山本健訳, 名古屋大学出版会, 2010年）日本経済新聞, 2010年10月17日
- 兼原信克『戦略外交原論』（日本経済新聞出版社, 2011年）日本経済新聞, 2011年5月24日
- ジョン・ルカーチ『評伝 ジョージ・ケナン——対ソ「封じ込め」の提唱者』（菅英輝訳, 法政大学出版局, 2011年）日本経済新聞, 2011年9月25日
- 下斗米伸夫『日本冷戦史——帝国の崩壊から55年体制へ』（岩波書店, 2011年）日本経済新聞, 2011年12月18日
- 千々和泰明『大使たちの戦後日米関係——その役割をめぐる比較外交論1952~2008年』（ミネルヴァ書房, 2012年）日本経済新聞, 2012年8月5日
- フレドリック・スタントン『歴史を変えた外交交渉』（佐藤友紀訳, 原書房, 2013年）日本経済新聞, 2013年5月7日
- フレデリック・ケンプ『ベルリン危機1961——ケネディとフルシチョフの冷戦』上・下（宮下嶺夫訳, 白水社, 2014年）日本経済新聞, 2014年8月10日
- ステイブ・キンザー『ダレス兄弟——国務長官とCIA長官の秘密の戦争』（渡辺惣樹訳, 草思社, 2015年）共同通信, 2016年1月7日配信
- 谷野作太郎『外交証言録 アジア外交——回顧と考察』（服部龍二・若月秀和・昇亜美子編, 岩波書店, 2015年）日本経済新聞, 2016年2月14日
- リチャード・J・サミュエルズ『3.11 震災は日本を変えたのか』（プレシ南日子・廣内かおり・藤井良江訳, 英治出版, 2016年）日本経済新聞, 2016年4月10日
- 五百旗頭真著／中西寛編『高坂正堯と戦後日本』（中央公論新社, 2016年）日本経済新聞, 2016年7月3日
- 宮城大蔵・渡辺豪『普天間・辺野古 歪められた二〇年』（集英社新書, 2016年）沖縄タイムス, 2016年7月30日
- 松尾文夫『アメリカと中国』（岩波書店, 2017年）日本経済新聞, 2017年3月18日。
- 村田晃嗣『銀幕の大統領 ロナルド・レーガン——現代大統領制と映画』（有斐閣, 2018年）共同通信, 2018年4月26日配信
- クレイグ・ネルソン『パウル・ハーバー——恥辱から超大国へ』上・下（平賀秀明訳, 白水社, 2018年）日本経済新聞, 2018年10月27日
- マーティン・J・シャーウィン『キューバ・ミサイル危機——広島・長崎から核戦争の瀬戸際へ 1945-62』上・下（三浦元博訳, 白水社, 2022年）日本経済新聞, 2022年12月10日



## 7. 学会・研究会報告, 講演

- 「ジョージ・F・ケナンとドイツ分割・再統一問題」日本国際政治学会 1984 年度春季研究大会アメリカ政治外交分科会（神戸大学），1984 年 5 月 27 日
- 「封じ込め政策の転換——ジョージ・ケナン，ポール・ニッツィと政策企画室，1947-1953 年」日本国際政治学会 1988 年度春季研究大会アメリカ政治外交分科会（帝塚山大学），1988 年 5 月 21 日
- 「書評報告 Melvyn, P. Leffler, *A Preponderance of Power: National Security, the Truman Administration, and the Cold War* (Stanford: Stanford University Press, 1992)」日本国際政治学会 1995 年度秋季研究大会アメリカ政治外交分科会（広島修道大学），1995 年 10 月 21 日
- 「アイゼンハワー政権の封じ込め政策と『東西交流』，1955-60 年」日本国際政治学会 2000 年度研究大会アメリカ政治外交分科会（名古屋国際会議場），2000 年 5 月 19 日
- “The Eisenhower Administration, the Cold War, and East-West Exchanges, 1955-1960,” paper presented at Kyoto American Studies Summer Seminar, Center for American Studies, Ritsumeikan University, July 28, 2001
- 「第二次世界大戦の教訓と『アメリカの平和』」第 26 回アメリカ史研究者夏期セミナー（同志社大学），2001 年 7 月 20 日
- 「アメリカ外交と単独主義の伝統」立教大学アジア研究・学術フロンティア「安全保障」シンポジウム（沖縄コンベンションセンター），2003 年 3 月 13-14 日
- “Cold War Diplomacy and Memories of the Pacific War: A Comparison of the American and Japanese Cases,” paper presented at the annual meeting of American Historical Association, Washington, D.C., January 9, 2004
- 「大統領制と外交」アメリカ学会第 38 回年次大会部会「大統領制の今」（日本女子大学），2004 年 6 月 6 日
- 「G・W・ブッシュ政権の外交——アメリカの外交的伝統と国内政治力学の文脈で」日本国際政治学会 2004 年度研究大会アメリカ政治外交分科会（淡路夢舞台国際会議場），2004 年 10 月 17 日
- “The Post-World War II Diplomacy and Memories of the Pacific War: A Comparison of the American and Japanese Cases,” paper presented at the first Global International Studies Conference, Istanbul Technical University, Istanbul, August 25, 2005
- 「アメリカ外交と東アジア——歴史的観点から」日本国際政治学会 2007 年度研究大会「アメリカ外交における東アジア」部会（福岡国際会議場），2007 年 10 月 26 日
- 「アイゼンハワー政権の封じ込め政策——ソ連の脅威，ミサイル・ギャップ論争と東



- 西交流」「東アジア冷戦史」研究会 (法政大学), 2008年2月1日
- 「大統領選挙が映すアメリカの変容」立教大学アメリカ研究所公開シンポジウム「2008年アメリカ大統領選挙——『変化』するアメリカ」, 2008年10月3日
- 「書評報告 倉科一希『アイゼンハワー政権と西ドイツ——同盟政策としての東西軍備管理交渉』ミネルヴァ書房, 2008年」日本国際政治学会2008年度研究大会アメリカ政治外交分科会 (つくば国際会議場), 2008年10月24日
- 「アメリカの世界戦略と日本」日本国際政治学会2010年度研究大会共通論題「『密約問題』——外務省有識者委員会の報告書をめぐって」(札幌コンベンションセンター), 2010年10月30日
- 「折り返し地点を迎えたオバマ外交——その成果と展望」同志社大学アメリカ研究所秋季公開シンポジウム「中間選挙後のアメリカの政治と社会」(同志社大学今出川キャンパス), 2011年1月15日
- 「アメリカ『衰退論』と外交論争」アメリカ学会第46回年次大会シンポジウム「『米国衰退論』再考」(名古屋大学), 2012年6月2日
- 「アイゼンハワー政権の封じ込め政策と東西交流, 1955-1960年」ロシア史研究会2014年度大会 (日本大学文理学部), 2014年10月18日
- 「パワー・バランスの変化とアメリカの東アジア政策——歴史的考察」日韓外交正常化50周年記念学術大会 (済州, 韓国), 2015年6月18日
- 「アメリカ的戦略文化と冷戦期安全保障政策」日本公益学会2015年度研究大会 (筑波大学), 2015年9月26日
- “The Evolution of Japanese Politics and Diplomacy under the Long Shadows of Hiroshima and Nagasaki” paper presented at conference on Nuclear Legacies: A Global Look at the 70th Anniversary of the Hiroshima and Nagasaki Bombing, Princeton University, October 2, 2015
- “After Abe’s Visit: Japan-China Relations in the Historical Context,” lecture at Tongji University, Shanghai, December 12, 2018
- 「アメリカ外交の長期的変容——国内政治・国際秩序との関係で」中・四国アメリカ学会50周年記念年次大会公開シンポジウム「変容するアメリカと世界」(広島大学東千田未来創生センター), 2022年11月26日
- 「イラク戦争とアメリカ政治・外交への影響——過去の主要な戦争との比較を視野に入れて」新学術領域研究「グローバル関係学」特別シンポジウム「イラク戦争から20年——イラク, 中東, アメリカ, 国際社会はどう変わったか」(東京大学駒場キャンパス), 2023年3月10日

## 8. 学会・研究会司会、討論者など

- Commentator for presentation by Tooru Onozawa, “The Quest for Strength: The US Policy toward the Middle East, 1953–1956,” Kyoto American Studies Summer Seminar, Center for American Studies, Ritsumeikan University, August 2, 1997
- 司会「冷戦再考」アメリカ学会第41回年次大会部会（立教大学），2007年6月10日
- Chair, “Politics and International Relations II,” Nagoya American Studies Summer Seminar 2008, Nanzan University, July 7, 2008
- Chair, “Hub and Spokes Revisited; Korea, Taiwan, ANZUS,” 新学術領域研究第5回国際シンポジウム「同盟と境界：地域大国を規定するもの」（北海道大学スラブ研究センター），2011年7月7日
- 討論者「アメリカと集団的安全保障——冷戦・核・インテリジェンス」日本国際政治学会2012年度研究大会自由論題部会（名古屋国際会議場），2012年10月19日
- 討論者「政治・軍事・外交」アメリカ学会第48回年次大会自由論題部会（沖縄コンベンションセンター），2014年6月7日
- 司会・討論者「岐路に立つオバマ政権——政治・外交・軍事」立教大学アメリカ研究所公開シンポジウム，2014年10月24日
- Chair, “Japan and Internationalism” 第4回国際関係史学会 CHIR-Japan 国際会議「国際社会に登場したアジア・太平洋——第一次世界大戦と日本 The Emergence of <Asia-Pacific> in the International Relations: The First World War and Japan」（東京），2014年12月6日
- 司会・討論者「2016年大統領選挙とアメリカの現在」立教大学アメリカ研究所公開シンポジウム，2016年10月1日
- 討論者「欧州諸国の安全保障文化の論点と比較研究」日本国際政治学会2016年度研究大会欧州国際政治史・欧州分科会（幕張メッセ国際会議場），2016年10月15日
- 司会「知識人のアジア認識」アメリカ学会第51回年次研究大会自由論題部会（早稲田大学），2017年6月3日
- 司会「歴史の記憶と国際関係——東アジアを中心に」日本国際政治学会2017年度研究大会日韓合同部会（神戸国際会議場），2017年10月28日
- 司会・討論者「小野沢透『『幻の同盟』とその後——冷戦期のアメリカと中東』立教大学アメリカ研究所2017年度アメリカ学会清水博賞受賞記念研究会，2017年12月9日
- Discussant for keynote speech by President Fumiaki Kubo, “Japan-US Alliance in the Face of Populism,” アメリカ学会2018年度第52回年次研究大会（北九州市立大学），2018年6月2日
- 討論者「池宮城陽子『沖縄米軍基地と日米安保——基地固定化の起源 1945-

1953』東京大学出版会, 2018年」成蹊大学アジア太平洋研究センター書評会(成蹊大学), 2018年9月27日

Chair, “Democracy and Diplomacy in North-East Asia: From National and Global Perspective” 日本国際政治学会 2018年度研究大会日韓合同部会(大宮ソニックシティ), 2018年11月3日

討論者「書評会 島村直幸『〈抑制と均衡〉のアメリカ政治外交——歴史・構造・プロセス』」ミネルヴァ書房, 2018年」冷戦研究会(杏林大学井の頭キャンパス), 2019年1月12日

Chair, “Japan, Korea and the Post-Cold War Era.” 日本国際政治学会 2019年度研究大会日韓合同部会(新潟朱鷺メッセ), 2019年10月19日

討論者「トランプ外交の評価」国際安全保障学会 2020年度年次大会部会(オンライン), 2020年12月5日

司会「トランプ時代のアメリカ——2020年大統領選挙」立教大学アメリカ研究所公開シンポジウム(オンライン), 2020年12月12日

討論者「ブックトーク 岩間陽子『核の1968年体制と西ドイツ』有斐閣, 2021年」政策研究大学院大学(オンライン), 2021年10月9日

討論者「沖繩返還50年——国際政治史の文脈で」日本国際政治学会 2021年度研究大会部会(オンライン), 2021年10月30日

司会「書評会 志田淳二郎『米国の冷戦終結外交——ジョージ・H・W・ブッシュ政権とドイツ統一』有信堂, 2020年」立教大学アメリカ研究所 2021年度アメリカ学会清水博賞受賞記念研究会(オンライン), 2021年12月11日

司会「書評会 吉留公太『ドイツ統一とアメリカ外交』晃洋書房, 2021年」アメリカ学会第56回年次研究大会アメリカ国際関係史分科会(オンライン), 2022年6月3日

司会「書評会 吉留公太『ドイツ統一とアメリカ外交』晃洋書房, 2021年」立教大学アメリカ研究所 2022年度アメリカ学会清水博賞受賞記念研究会(オンライン), 2022年12月10日

## 9. 報告書など

「クリントン政権の対旧ソ連政策——対ロシア政策を中心に」平成5年度外務省委託研究報告書『ポスト冷戦期の地域紛争と米国の関与』(主査 佐藤英夫・筑波大学教授) 日本国際問題研究所, 1994年3月

「アメリカの世界戦略と日本」『いわゆる「密約」問題に関する有識者委員会報告書』(座長 北岡伸一・東京大学教授) 外務省, 2010年3月

「アメリカ外交の伝統・理念と日米同盟の形成」平成22年度外務省国際問題調査研

究・提言事業費補助金事業報告書『日米関係の今後の展開と日本の外交』（主査 久保文明・東京大学教授）日本国際問題研究所，2011年3月

「20世紀アメリカの中国政策の展開とパワー・トランジション——歴史的視点にたって」平成23年度外務省国際問題調査研究・提言事業費補助金事業報告書『日米中関係の中長期的展望』（主査 山本吉宣・PHP 総研研究顧問）日本国際問題研究所，2012年3月

「トランプ政権と日米関係の行方」広島市立大学広島平和研究所編『グローバル化の限界——変容を迫られる平和・安全保障秩序』（ヒロシマ平和セミナー2017），2017年8月

「バイデン政権の東アジア太平洋政策」広島市立大学広島平和研究所編『広島から戦争と平和を考える』（広島平和研究所ブックレット Vol. 8），2022年7月

## 10. 事典、用語集の項目

「ローズヴェルト政権——戦後国際秩序の模索と戦時外交」「トルーマン政権——冷戦体制の構築」「アイゼンハワー政権——冷戦の恒常化」「ケネディ＝ジョンソン政権——デタントとヴェトナム戦争」「ニクソン＝フォード政権——アメリカ外交の転換」「ケナン——封じ込めの“父”」「戦後国際秩序の構築と日独占領体制——敵国から同盟国へ」「アメリカの国連政策——生みの親に疎んじられる子ども」「文化外交——ソフト・パワーの伝播」「対ソ封じ込め政策——冷戦を戦うための戦略」石井修・滝田賢治編『現代アメリカ外交キーワード——国際政治を理解するために』有斐閣，2003年4月

「アイゼンハワー」「アチソン」「キューバ危機」「ケナン」「ケネディ」「国家安全保障法」「ジョンソン」「戦略防衛構想」「ダレス」「中央情報局（CIA）」「トルーマン」「トルーマン・ドクトリン」「パウエル」「封じ込め政策」「フォード（ジェラルド）」「武器貸与法」「ブッシュ（ジョージ）」「ブッシュ（ジョージ・W.）」「フルブライト」「ベルリン管理委員会」「ベルリン封鎖」「ベルリン問題」「マーシャル」「マーシャル・プラン」「マッカーサー」「レーガン」など 世界史小辞典編集委員会編『世界史小辞典〔改訂新版〕』山川出版社，2004年1月

「封じ込め戦略」猪口孝・田中明彦・恒川恵市・薬師寺泰藏・山内昌之編『国際政治事典』弘文堂，2005年12月

「マーシャル・プラン」「封じ込め」「キューバ危機」「ヴェトナム戦争」田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識〔新版〕』有斐閣，2010年6月

「イラク戦争」「イランコントラ事件」「冷戦の終焉」「湾岸戦争」荒このみ・岡田泰男・亀井俊介・久保文明・須藤功・阿部齊・金関寿夫・斎藤眞監修『アメリカを知る事典〔新版〕』平凡社，2012年4月

「力の外交」「文化外交・文化摩擦」「日米安全保障条約」アメリカ学会編『アメリカ文化事典』丸善出版, 2018年1月

「ドミノ理論」「封じ込め政策」現代地政学事典編集委員会編『現代地政学事典』丸善出版, 2020年1月

## 11. 翻訳

オール・R・ホルステイ「メディアと米国の外交政策——左翼と右翼によるメディア批判の検討」(有賀貞との共訳)武者小路公秀・臼井久和編『国家間関係と政策決定』有信堂(転換期世界の理論的枠組1), 1987年2月

ショーン・マロイ「『野獣を相手にしなければならない時には』——人種, イデオロギーと原爆投下の決定」マイケル・D・ゴードイン/G・ジョン・アイケンベリー『国際共同研究 ヒロシマの時代——原爆投下が変えた世界』(藤原帰一・向和歌奈監訳)岩波書店, 2022年3月

## 12. 新聞寄稿など

「視標 冷戦終結30年」共同通信, 2019年12月4日配信

「失われた融和と希望」共同通信, 2020年6月5日配信

「道教大元教授拘束2年」共同通信, 2021年5月27日配信

「ウクライナ危機下の米国の対応は」中国新聞, 2022年11月18日

## 13. 小論, エッセイなど

「立教大学法学部に着任して」『法学周辺』第22号, 1995年9月

「座談会 市民社会の成熟と見合う政治学の研究と教育」(高嶋通敏, 栗原彬, 北岡伸一, 五十嵐暁郎, 新藤宗幸, 松田宏一郎, 高原明生, 佐々木卓也)『法学周辺』第23号, 1996年4月

「アメリカ滞在雑感」『法学周辺』第27号, 2000年3月

「私のインターネット利用」『法学周辺』第34号, 2006年3月

「今でも学生とともに繙く日本外交論の古典 中江兆民『三酔人経綸問答』」『外交フォーラム』第22巻第1号, 2009年1月

「研究大会雑感」*JAIR Newsletter* (日本国際政治学会ニューズレター) 第135号, 2013年3月

「オバマ外交の4年間」『アメリカ学会会報』第181号, 2013年4月

「視点 トランプ氏を選出した大統領選挙制度と新たな体制下における日米外交の行方」『立教』第239号, 2017年1月

「日本国際政治学会の活動」『学術の動向』(学協会の今——社会と向き合う16) 第25

卷第2号, 2020年2月

「私を知るほんの幾つかの回顧録と評伝について」『法学周辺』第51号, 2020年3月

「外交史料館五〇年に寄せて」『外交史料館報』第35号, 2022年3月